

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第11回高田区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

(1) 諮問事項 新市建設計画の変更について（通知）（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活性化の方向性について（公開）

(2) 令和4年度地域協議会の活動計画について（公開）

4 開催日時

令和4年12月19日（月）午後6時30分から午後7時24分まで

5 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

6 傍聴人の数

1人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員：飯塚よし子、浦壁澄子、北川拓、佐藤三郎、澁市徹（副会長）、杉本敏宏、高野恒男（副会長）、富田晃、西山要耕、廣川正文、本城文夫（会長）、松倉康雄、宮崎陽、村田秀夫、茂原正美、吉田昌和（欠席4人）、
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、小池係長、難波主任

9 発言の内容（要旨）

【小池係長】

- ・ 小川委員、栗田委員、小嶋委員、松矢委員を除く16人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【本城会長】

- ・ 会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：本城会長、北川委員

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【本城会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし

— 次第3 報告（1）諮問事項 新市建設計画の変更について（通知） —

【本城会長】

次第3 報告（1）諮問事項 新市建設計画の変更について（通知）に入る。

事務局より説明を求める。

【小池係長】

前回の地域協議会において、高田区地域協議会からの答申に対する市長からの通知を事務局より報告した。その際、質疑があり、事務局で即答できない内容であったことから今回の地域協議会へ持ち越しとなっている。

また、本城会長から担当課の出席についての要望をいただいております、本日の地域協議会に向けて担当課と調整したが、個別の回答や地域協議会への出席につながらなかった。

理由としては、今回の附帯意見のポイントとなる「現在地での早期の着工及び完成となるよう事業の促進をお願いします」という意見に対して、「現在地での新築に向けて可能な限り早期の基本設計着手を目指してまいります」と回答していること。また、それ以外に回答した内容については、市議会に対して説明している内容と同様であり、「これ以上に説明できる状況にない」としたものである。

【本城会長】

- ・この件について、質疑を求めるがなし

私としては、できれば担当課より説明をいただきたいと要望したが、市としては今ほど説明があったように、11月10日付けで回答のあった内容が現時点で説明でき

る全てであるとの考えである。

別途3月議会の後に上越地域医療センター病院の令和3年度決算状況や令和5年度予算について報告を受ける機会を調整することを考えている。

これについて意見等あるか。

【富田委員】

前回の会議からいろいろと考えた。上越地域医療センター病院の位置付けとして、10年後、20年後に極端な人口減少があった時に、上越地域医療センター病院の果たす役割。つまり、県立中央病院や労災病院もあるが、今の病院の動きというのは、お互いを助け合う。つまり県立中央病院であれば手術。上越地域医療センター病院であればフォロー。そういう目的が明確になっているのかということ。目的が明確でなければ駄目である。

この前はアウトプット、投資対効果ということで、私もいろいろと発言したが、どうしても必要な病院は人の命がかかっているのも、やはり赤字でも継続しなければいけないと思う。そのあたりの上越市の考え方はどうなのか。強い信念を持ってやらなければいけない。「赤字だからやらない」と言って、人がどんどん亡くなれば、さらに人口減少に拍車をかける。もっと本質を検討してやってほしいと思う。これがこの1か月間の私の考え方である。

【本城会長】

この問題は議会でもとり上げられており、合併特例債の期限が令和11年度ということがあり、そういったことを前提にして基本計画、基本設計を進めるということまではきている。それから収支関係も、婦人科の外来や麻酔科の関係があって赤字幅がかなり短縮され、9,000万円くらいまで短縮されてきている。

コロナ禍の中でかなり改善はされているという状況を見ながら、新年度の予算でどのようなかたちで出てくるかは分からないが、そういうことも含めて市議会でもとり上げられているため、その推移を見ながら、できれば3月議会の新年度予算が終わった段階で担当課から少し細かく説明をいただきたいと私は思っており、正副会長会議でもそのように意見をまとめたところであり、そのように理解いただきたい。本日の段階では先般配布した11月10日付けの市長の通知を参考にさせていただきたいと思っている。

・これについて意見等求めるがなし

以上で次第3 報告(1) 諮問事項 新市建設計画の変更について(通知) を終了する。

— 次第4 議題(1) 地域活性化の方向性について —

【本城会長】

次第4 議題(1) 地域活性化の方向性についてに入る。

1 1月28日に「地域活性化の方向性の作成に向けた高田区地域協議会学習会」を開催し、高田区在住の市議会議員より貴重な意見をいただいた。

振り返りの資料となる資料No.1、資料No.2をご一読いただいていると思うが、この学習会を振り返っての感想や意見等のある委員の発言を求める。

【西山委員】

この前も意見が出ていたが、全体的に地域の活性化、例えば、本町や南本町の商店街が具体的にどこまでになったら「活性化する」ということが全くない状態である。

正直言って、地域活動支援事業でも10年以上で億単位以上のお金がこの高田区に投入されている。だが現状で10年前からどれくらい変わっているのかというと、私は全く変わっていないと思う。平日は人の流れも全然ないわけである。

「活性化を進めていく」ということについて、例えば「1日に人が何人歩くようになった」「商店街が何々をする」となると活性化、ということがない限り、議論のしようがない、目標の立てようがないとこの前の会議を聞いていて思った。さらに、特に商業的な面でいうと、市が補助を投入することはそうなのだが、一般の商店がある程度、自力でやるのが一番と思う。いくら税金を投入しても、商売を行っている人達が「市は何も手伝ってくれない」「自分達の商売がよくなる」というよりも、まずは自分達が商売を盛り上げるような方策を施していかない限り、商店街の活性化などないと思う。

過去に買い物難民の話をした時、本町商店街の代表の方が来られて、自分達が土地を提供しているため、駐車場を無料にする等、今後その部分のお金が自分達に入っていないような方法は絶対に認めないと言っていたが、そういう考え方を根底から変えなければ、商店街等の活性化にはつながらないと思う。

少し前に、全国的にまちを立て直しているプロの人が講演会で来た時に、半分は市

等の助成金もそうだが、半分は地元の人が権利を捨てることから、まず始めなければまちは活性化しない、自分の利益ばかりを主張していても駄目であり、捨てるところは捨てて皆で協力しなければまちづくりはできない、と言っていたことがすごく頭に残っている。

これから高田区が市に対して「高田区の方向性」を考えていくのであれば、その辺も頭に入れていく。「市だけがお金を出さなければいけない」「住民はやってもらうことが当たり前」という答えだけは出してもらいたくない。我々もやはり汗をかかなければいけないと思った。そういったところがすごく印象に残った。

【本城会長】

他に意見や感想等ある委員の発言を求める。

学習会の内容を事務局が整理をし、議事録的にまとめたので、各自目をとおしていると思う。

先般の正副会長会議で、この問題の今後の取り扱いについて協議した。正副会長としては3月を目途として、市議会議員の方々よりいただいた意見に加えて、今度は福祉関係の医療や高齢者の方々との話合いの場、子育て世代の人達との交流の場、今ほど意見のあった商店や事業所といった団体の方とも、ぜひ意見交換をさせていただき、地域協議会との認識の共有をしていきたいと思っている。本日いただいた意見を参考に正副会長と事務局で協議し、次回の会議で案を示したいと思う。

本日のところは、先般の市議会議員の提言、意見を参考にしながら、今後の議論の参考にしたいと思っている。そのように受けとめていただけてよいか。

【富田委員】

「地域活性化の方向性」をどのように生かすのか。他区の地域協議会の方向性が出来上がってきており、今後、高田区でも出来上がらせるものであるが、十人十色であるため、はっきり言ってなかなかまとまらないと思う。それをまとめることは無理だと思う。また、それが出来上がったときに、どのように生かして何をするのか。資料で見た記憶があるが、行政は地域協議会が完成させた「地域活性化の方向性」を見て、何かいろいろとやるようなことも書かれていた。だから、地域協議会のメンバーはどういう風に生かしていくのか、というところまで考えておかなければいけないと思う。

意見を聞く時は一つの目標があって、いろいろと意見を聞くわけである。単なる「こういうことで、現状そうです」と、それで終わったのでは何も次の展開がない。次の

展開を目指すためにヒアリングや意見交換をして、そこから見えてくる。だから、この前の市議会議員もそうだが、それこそ「地域活性化の方向性」ではなく、今検討している考え方がどのように結びついていくのか、将来、高田区や上越市の発展のために、どういうふうに結びついていくのかというところまで議論しなければ、それでおしまい、実行しない、これはよくあることだ。実行を伴わない、意見交換だけ、仲良しクラブ。そこまでであれば全然意味がないと思う。実行に移さなければ、「やった」という達成感はないと思う。意見交換も大事だと思う。これも地域協議会の第一使命である。地域の人たちがどのように考えているのかを聞くことは、非常に大事なことだと思う。

【本城会長】

おそらく28の地域協議会がそれぞれに課題から一生懸命、目的を作ろうとしている。総合事務所がある区では既に我々の手元に配布されたように、かなり進んでおり、地域の課題を五つくらいに絞り込んでいる。

先日の学習会で市議会議員の方々からも指摘があったように、そして地域協議会委員からも指摘があるように、南部まちづくりセンター職員の配置がそもそも手薄であり、これは新年度で何かしら改善してもらいたいということは、議会での市長の答弁のようなものにも出ている。そういうことも含めて、少し事務局体制を強化していただきたいと思っている。あくまでも、地域協議会はボランティアとして、いろいろな形で意見を言っているが、こういうものをとりまとめながら、行政的に整理していただくということが最後は必要だと思う。

高田区地域協議会では分科会を開くなどし、いろいろとやってきたが、あと残りわずか1年の任期しかない。その中でどれだけ方向性を出せるのか、これも我々の大きな責任である。

- ・今のようなことを踏まえて、今後、福祉の問題に絞り込んで団体から意見を聞く、または子育て世代から、または商店、事業者と、三分野くらいを候補としてやっていくことを諮り、委員の承諾を得る

以上で次第4 議題（1）地域活性化の方向性についてを終了する。

— 次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画について —

【本城会長】

次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画についてに入る。
澁市副会長より説明願う。

【澁市副会長】

・資料No.3により説明

【本城会長】

ただ今の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【富田委員】

前は市議会議員よりいろいろな意見を聞いて、資料をいただいたわけだが、これは非常に難しい。はっきり言ってこれだとやりっ放しになる。これを地域協議会委員はどのように咀嚼して、こういうことだから、皆の意見をこういうところに、こう言われているのではないかとか、そういうまとめをしたものを議員に配り、そして議員が「そうだな」ということで前に進むのではないかと思う。これだけでは議員が「こう言った」で終わってしまう。私もこのようなアンケートをいろいろとしてきたが、そんなものである。

地域協議会として、市議会議員と話し合い、地域協議会が皆さんの意見からこういうふう咀嚼して、このようにまとめたがいかがか、こういうところを突っ込んでもっとやりたい、深掘りしたい等、そこまでいかなければ市議会議員に失礼だと思う。1時間半も話を聞いた。そして、地域協議会は何をするのか、ということまで議論しなければ、単なる本当に「うん」ということになりかねない。今度は福祉方面等いろいろな人たちから話を聞くわけだが、そういう人たちに返す、必ずアンケートを返す、これはものすごく大変である。私もいろいろなことをやってきたが、この「返す」ということをやらなければ、お互いの信頼関係ができない。地域協議会とは何なのか、となるので、これは大変である。いかに咀嚼してまとめるか。大変だが、それをやらないと本当の本質が見えてこないと思う。

【澁市副会長】

私が説明した「令和4年度地域協議会の活動計画について」に関連した質問かと思ったが、そうではなく、事務局がまとめた資料についての質問でよいか。

これでは駄目だということか。

【富田委員】

駄目ということではなく、それを咀嚼して、我々は地域協議会として考えていく必要があるということ。

【澁市副会長】

その結果として出てくるものが、例として、三和区がまとめたような「地域活動活性化の方向性」だと思う。これを作るために、今、我々は勉強している。

地域協議会委員は20人いるが、20人というのは限られた人数である。限られた知恵しかない、経験もないということで、実際の市政に携わっている市議会議員から意見を聞いて、勉強しようということで始まった。いろいろな意見が出てきた。それをよく読み、咀嚼して、これから次のステップへ移るわけである。福祉関係の人、例えば、子育ては別になるが、幼児教育や障害者教育、高齢者福祉に携わっている人達との意見交換会。または、これからの社会を担っていくのは子育て世代であり、女性だけではなく、男性も含めた若い世代との意見交換会。または、先ほどから話が出ている、商店や企業経営者との懇談会、学習会である。我々がそういった人達からいろいろなことを教えていただき、それを基にこういったものを作っていく。それが成果品になるのではないか。

いちいち、市議会議員との学習会の結果でこういったことが結論として出た、ということは非常に難しい。20人の意見をまとめるということは、とてもではないが、私の能力ではできないと考えている。そのため、各自意見を持っていると思うが、私の解釈、意見では、これを作るために今後7、8月くらいまではこういった学習会をして、そして皆で議論していこうと考えている。他の委員、特に本城会長の意見もそうだったと思う。いかがか。

【本城会長】

富田委員の意見はもっともだと思うので、そういったものを参考にしながら、私達は高田の現状とあわせて、整理をしていくことは大事だと思う。意見にあったように、市議会議員より教えていただいただけでは解決できない問題だと思う。

また、私も市議会にかなり関心を持っていると見ているが、地域協議会に対して、今、市議会でも「地域協議会の必要性」のようなものにまで踏み込んで議論されている。これは、市長の地域協議会の制度に対する考えもあると思うが、我々に何か突きつけられているというか、地域協議会の存在感というか、何か最近はそのようなことを深刻に感じるようになっている。我々はコンサルタントのようにレポーター

の広い人ばかりでもない。やはり、そういうことになってくると行政の責任である程度、そういうものを整理していっていただくことが必要だと思っている。そのため、私はむしろ4月、新年度の人事異動の中で南部まちづくりセンターに職員が増強され、そして地域協議会委員の知見も入れて、ある程度整理をしていっていただきたいという思いを持っている。

13区で次から次に出てきているのは、総合事務所では行政のベテランがまとめているわけなので、その違いがあると思う。先ほど澁市副会長の発言にあったように、我々のレベルでは失礼な話だが、なかなかそこまでの政策形成能力というのは大変かと思う。そういったことも含めて、いろいろな団体、市民の「高田区における課題」を整理して、南部まちづくりセンターと一緒に一つの方向性をまとめていきたいと思っている。富田委員の意見の中身は十分に理解できているので、そのように考えていきたいと思う。

- ・その他、質疑等求めるがなし

以上で次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画について を終了する。

— 次第5 事務連絡 —

【本城会長】

次第5 事務連絡 に入る。

事務局より説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第12回地域協議会：1月23日（月）18：30から 福祉交流プラザ

第13回地域協議会：2月20日（月）18：30から 福祉交流プラザ

- ・配布資料

三和区地域協議会の地域活性化の方向性

板倉区地域協議会、大潟区地域協議会の意見書

【本城会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし。

全体を通して質問等を求める。

【西山委員】

本日はこれで終了だと思うが、最初の本城会長の発言で、予定として1時間は会議の時間をとっているが、まだ30分以上時間が余っている。皆、自分の用事を工面して集っている。

例えば、前回の市議会議員との懇談会で何か気づいたことなど、これだけ時間が残っていれば、一人一人から意見をいただくなど、時間をもっと有効に使っていただきたい。これは本日の会議に出た率直な思いである。

地域協議会は地域の課題や問題を話し合い、ディスカッションすることが一番の利点だと私は思っている。しかし、今日も私と富田委員しか発言していない。もう少しきちんと意見が出るような運営の仕方というか、本城会長のやり方が悪いということではないが、そこら辺をもう少し考えてほしい。そうしなければ、何も議論しないうちに結果だけ「これです」となってしまいそうである。そういったところをもう少しお願いしたい。

【本城会長】

なかなか難しいと思う。こういった会合で議題が決められており、そしてお互いにある程度、いろいろな思いを言い合うことは大事なことだと思う。だが、本当にそれだけの魅力があるのかということが最近問われている。これは高田区地域協議会だけではない。他区の地域協議会でも「地域協議会委員の任務は一体、何なのか」「市はどういう位置付けをしているのか」というところが大変、不鮮明だと。市長が変わった途端、地域活動支援事業が「地域独自の予算」に変わる等、いろいろな形で変わるため、地域協議会会長会議でも意見を言っているが、「市の方針はどういうものなのか」と、「地域協議会委員はどのようにしていけばよいのか」と、そこに戸惑いがある。市長の方針がくるくる変わっているということも問題があるのではないかと思う。地域協議会に対して「意見を出せ」「提言しろ」「地域の宝を探せ」等、盛んにそういった提案が出てきている。我々に何かものをぶつけられている感じはあるが、以前の地域協議会をスタートしたときの地方自治制度という建前からいくと、地域協議会の位置付けがここに来て、市長交代とともに後退している感じがする。委員も意見を言いにくいというか、何かそういった雰囲気が漂っているのではないか、ということが現実だと思う。

今、市議会でも議論があるように、「地域協議会のあり方」について、抜本的に検討

するというようなことまで言われている。そうすると、地域協議会の存在も、我々は一生懸命に「地域のため」「高田区のため」と思って集まっているわけだが、何か発言しても虚しいというか、市に上越地域医療センター病院の問題について何か意見を出しても、説明にも来ない。「回答どおりであり、それ以上に説明できることはない」とされる。事務局にも言っているが、私としては現状報告でもよいので、やはり地域協議会に来て説明してほしいと思っている。しかし「市議会でもそういったことを答弁しており、公になっている」と言われてしまう。そして今度は「市議会の議事録を見せてほしい」といった話になると、我々で市のホームページを検索して見るというような、そういうことでは行政と地域協議会の連携プレーがとれないのではないかと、私はそう思っている。

先ほどの西山委員の発言にあったように、私は本当に議論したいが、では何を議論して、どこに向かって議論していくのかと、ここがどうも、ぼやけているような感じがして仕方がない。

長いこと地域協議会委員をやってきた委員も多いが、私のように新しく入った1年生委員は、昔のような夢を持った地域協議会の活動というか、どうもそこに到達していないという気はする。これは私だけかもしれない。私の責任能力の限界もあるのだと思うが、そこはお詫びを申し上げなければならない。気持ちはあるが、委員からどんどんと発言してもらって、行政に宿題を預けることが大事なのだと思う。

今ほど、西山委員より厳しい指摘をいただいた。時間には拘っていないが、事務局と事前協議した地域協議会の進め方としては、一応、以上をもって本日の会議は終了したい、ということになってしまう。

他に何か意見等あるか。

【富田委員】

雑談になるかもしれないが、「地域活性化の方向性」は、非常によい考え方だと思う。

あと10年後、20年後にどうなっているかということ、いろいろと勉強することはなかなか大変であるが、それをどうイメージするかである。イメージして、そして第7次総合計画で行ったバックキャスティングという20年先を考えて行うという考え方。そのようなやり方で、この「地域活性化の方向性」も出すのかなと思う。

今は、現状でいろいろな人から実態や事情を聞いてやろうとしている。行政が「出してほしい」と、「将来どういうふうに高田区、上越市を変えていきたいのか」と言わ

れる。それはトップが考え方を示すものであると思う。それを言っているが、なかなか出てこない。批判するわけではないが、なかなか難しいと思う。

以前、杉本委員が発言していた「活性化をどのように定義するか」「いろいろな意味がある」と聞いて、そうだと思った。企業であれば社会貢献といかに利益を出すか、そこにつながると思う。杉本委員の一言が私にはものすごくこたえた。

ところがこういう地域、上越市を考えたときに、どういうふうな方向性をどこまで考えなければいけないのか、というところも議論をしなければいけない。いろいろやりました、福祉やいろいろなところに聞きました、そして、こういう意見が出てきました、こういう現状が見えてきました、さて、それをどのようにまとめるのか、というところを考えると、これは非常に難しいが、まとめあげなければいけない。そういうことまで考えてやるべきである。

「地域活性化の方向性」について、13区からいろいろと出てきているが、皆も考えはあるはずである。10年間も委員をやっているれば、皆「地域活性化の方向性」を持っている。委員の考えを聞きだして、そして議論をして、それで各団体と議論をすると本当に本気度の高い議論ができるのではないかと思う。

はっきり言うが、ここにいる委員は、本当にいろいろなことをやってきたエキスパートである。皆、素人だと非常に謙遜しているが、ここにいる人達はものすごくいろいろなことに精通しており、素晴らしい人達なのである。そういったものを皆、持っている。持っていなければ、地域協議会には参加しない。

「自分は高田区をこうしたい」ということを出し、そして各団体と意見交換などを行えばよいのではないかという気がする。

皆が普段考えていることをこういう場で発言した方がよい。あの人はああいうことを考えている、あの人はこうだと。やはり本音をいろいろと聞きたい。そうでなければ、本当に信頼関係はできない。信頼回復のためには、やはり自分で考えていることを本当に言わなければいけないと思う。

【杉本委員】

時間が余っているようなので、情報提供というか、皆、いろいろと情報を持っていると思う。このような時間があつた時に自分の持っている情報を提供するようなことがあつても良いのではないかと思う。

それで言うわけではないが、以前、水害の問題で意見書を出すなどした。稲田橋の

付近で、今年の夏頃から土砂撤去をずっと行っている。現地に出向き、作業を行っている業者からいろいろと話をするなどしていると、地域協議会でいろいろと動いたことが影響していると感じた。直接そのように言わないが、「誰かが何かやってほしいと言ったので、このようになっている」というような話が聞こえてくる。

次に、水害関係でいうと、廣川委員の家の向かい側のところに以前に視察で行った時に、水路の拡幅の話が少しあったと思う。それに関わる工事ではないかと考えられるものが始まっている。これもやはり、地域協議会で意見書を出すなどして市にお願いをして、国土交通省に話が上がって、というようなことが回り回って動きとして出てきているのだろうと思う。そのようなことが目についたので、情報提供であった。

他には、何年か前にあった糸魚川の大火事の検証を行っている先生がオーレンプラザに来た県の会議があり、富田委員も出席していた。これは各町内に、「このような会議がある」と参加を募る旨が回覧されたが、住民はあまり回覧を見ていない。町内会長でも見ていない人はたくさんいる。

その会議に私が行って思ったことがいくつかある。

一つは、糸魚川の火事が、どうしてあのような大火になってしまったのか、というところから話を聞いたが、高田の町の中で同じようなことが起きる可能性があるため、そういった勉強をする機会を設けた方がよいと思った。

また、非常に印象に残っていることで、高齢者や子ども、女性でも使用できる消火ホース。消防団の人が踏ん張らなければ吹き飛ばされるくらいの威力のあるホースでは駄目だが、40ミリの径にすると女性でも消火できるという話があった。そういったものを糸魚川では設置しているとのこと。それは地域協議会、消防団、町内会長協議会等、どこがどのようにして、見に行った方がよいのか、少し考える必要もあるかと思うが、実際にどのようなもので、どの程度、自分でもできるのかということを見てくる必要があるのではないかと。できれば上越市でも糸魚川で設置されているものに入れ替えてほしいとまとめて、意見書として出すことができればよいと思った。

【本城会長】

災害対策、例えば、関川の問題や火災の問題もそうだが、直近の問題として豪雪の問題も高田区では昨年より提言しており、かなり改良されている。特に豪雪対策については、今日も電車はとまり、国道18号線もストップしているようであり、たまたま高田地区は少ないようだが、そういったことを地域協議会として発信することが大

事だと思っている。

次回の会議は1月23日に開催する予定であり、また皆で意見を持ち寄って、意見交換をしたいと思っている。

【富田委員】

今ほど、杉本委員から防災について色々な情報提供があった。

私も分科会で「若者の地域参画」ということで、1年半、色々やらせていただいた。最後に総括をして、ヒアリングをさせていただいた人達に配布して、その後もいろいろフォローしている。

bibit のA氏、まめつぶのB氏、四九の市のC氏など、そういった若者が地域参画をやっており、市の方で「若者の地域参画」というか、「若者の事業化」ということで、いろいろとやっている。金沢市のD氏という40代の人を迎えて、彼が町家の活性化ということで話し、そこに上越市の若者が10人から15人くらい参加して、いろいろと聞いている。結構、若者もいる。そういう若者がこれから、今、自分がお付き合いしているのは40歳前後の方々だが、そういう人がこれから10年、20年後、50歳、60歳の時に、この地域、高田区を中心になっていくのではないかと思う。

そういったことを見ながら、「若者の地域参画」というものは、行政もそのようにして、我々がやったから認めたのかは分からないが、そういうことを意識してやっている。これは以前に高野副会長が「若者の地域参画は重要なことである」と発言しており、ぜひフォローしていきたいと思っている。情報提供である。

【本城会長】

今ほど、杉本委員から町内会長会の話も出たが、1月13日に南部の町内会長のブロック長会議が開かれる。私宛に案内が来たので、参加を予定している。そういった機会に、意見なども含めて少し連携がとれるようなことがあれば、これまでの意見も参考にして、話をしていきたいと思っている。なるべく、町内会長会とも連携をとるように努力して、ようやく私のところにも声がかかるようになった。徐々に連携をして、高田区のためにお互い汗を流しましょう、ということをやっていることを理解いただきたいと思います。

- ・会議の閉会を宣言

10 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city. joetsu. lg. jp

1 1 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。